

## 「群馬県環境基本計画2021－2030」の改訂にあたって

近年、地球温暖化の影響により酷暑日が増加し、気象災害も激甚化・頻発化するなど、私たちを取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。さらに、新型コロナウイルスの感染症の拡大や、ウクライナ・ロシア情勢に伴う資源供給の不安定化など、社会経済の不確実性が増す中、持続可能な社会の実現には、従来の生活や価値観からの大きな転換が求められています。

環境や社会を取り巻く課題の多くは、私たちの活動が地球環境へかけてきた過度な負荷に起因するものであり、もはや対策に猶予はなく、今この瞬間から確かな行動が必要です。



こうした危機感のもと、群馬県では、2019(令和元)年12月に、災害に強く、持続可能な社会の構築と県民の幸福度向上に向けた取組として、全国に先駆けて「ぐんま5つのゼロ」を宣言しました。これは、2050年に向けて、①自然災害による死者「ゼロ」、②温室効果ガス排出量「ゼロ」、③災害時の停電「ゼロ」の同時達成に加え、④プラスチックごみ「ゼロ」、⑤食品ロス「ゼロ」の実現を目指すものです。

さらに、2020(令和2)年12月には、2040年の群馬県の姿を見据え、「誰一人取り残さない自立分散型社会」の実現を目指す「新・群馬県総合計画」を策定し、翌2021(令和3)年4月には、その環境分野を牽引する「群馬県環境基本計画2021-2030」を策定しました。本計画では、2040年における群馬県の環境の将来像として「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」を掲げ、環境・経済・社会の課題を統合的に解決するSDGsの考え方を取り入れながら、環境問題の解決と経済成長を両立させる脱炭素・循環型社会の実現を目指してきました。

このたび、計画期間の中間年を迎えるにあたり、社会経済情勢の変化や県民の意識の動向、これまでの施策の成果を踏まえ、本計画の見直しを実施しました。2040年における本県の環境の将来像をより具体的に捉えつつ、ネット・ゼロ、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブといった施策横断的な視点を取り入れることで、総合的かつ計画的な環境行政の展開を図ります。

今後も県民の皆様と力を合わせ、「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」の実現に向け着実に歩みを進めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。

2026年3月

群馬県知事

山本 一太